

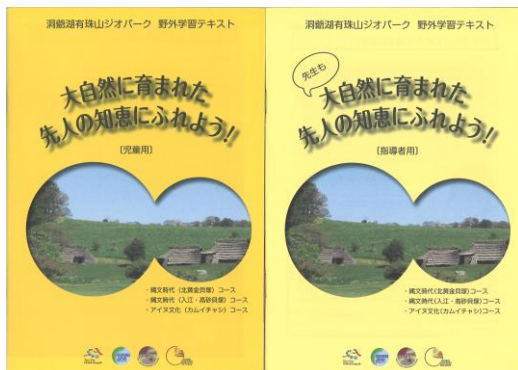
学校とジオパークの連携

次の世代を担う子どもたちに、自分たちが暮らしているまちのことを知ってもらいたいと、ジオパーク推進協議会では4つの市町にある小・中・高校と連携を進めています。

現在の学校では、どのような授業が行われているのでしょうか？

小学校では、町の特徴を知るために、比較的学校から近い場所で、自然や産業について学ぶことが多いようです。中学校になると、避難活動や避難所運営について考えたり、大人へのインタビューを行ったりして、地域の特徴と産業とのつながりを学びます。集めた情報をまとめて自分の考えを整理し、発表する機会も多くなります。

さらに高校になると、「地域の魅力を観光に活かすプログラム」や、「森の成長（植物の種類の变化）」など、学習内容はより専門的になっていきます。



洞爺湖有珠山ジオパークの学習をサポートする野外学習テキストシリーズ「歴史文化編」。ホームページからも見られます。

実物を見たり触れたりでき、さらにそれを案内・解説できるガイドや講師がいるということが、ジオパークが学校での学習にも役立つ大きな理由です。

授業をきっかけに、生徒の皆さんが自分たちが暮らす町についてもっと知りたい、もっと伝えたい！と思ってくれるよう、これからもジオパークでは、講師の派遣や教材の提供等、学校と連携した取組を進めていきたいと考えています。



6月、伊達緑丘高校の「植生の遷移（森の成長と植物の種類の变化）」をテーマにした授業の様子。3か所でどんな種類の草木が見られるかを観察し、比較してみました。

ジオパークとは、大地の成立ちと、自然、人間とのつながりを楽しく学ぶことができる地域のこと。

国内には「ユネスコ世界ジオパーク（国際認定）」が9地域、「日本ジオパーク（国内認定）」が43地域あります。